

## 東南アジア憧れの日本の四季

シンガポール事務所

シンガポールをはじめとする東南アジア各国では、長期の休みを利用して日本を訪問したいという人たちが、年々増加しています。日本政府観光局（JNTO）によると、2015年1年間に日本を訪れた外国人客は過去最高の1973万人でしたが、そのうち東南アジアの主要6カ国（タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム）を合計すると200万人を超える規模となりました。

### 1 日本の魅力① 四季の変化

他の地域と比べて特徴的なのは、東南アジアでは普段体験できない「四季の変化」に対する人気が高いことです。代表的な例は、「桜」「紅葉」「雪」を見ることで、例えばベトナム人にとって、「日本と言えば桜」というイメージが強く、桜の咲く季節は1年の中で最も人気があります。

### 2 日本の魅力② 素材や季節を生かす食

訪日旅行の大きな目的の一つに本物の日本の食の体験があります。「日本食」には、明確な四季と地理的な多様性を取り入れた新鮮な旬の食材、その食材の持ち味を生かし引き立たせる工夫、自然の美しさや季節の移ろいを取り入れた盛り付けや食器等に特徴がありますが、東南アジアの人々もそこに魅力を感じています。

以上のように、東南アジアは、地域によって差はありますが1年を通して高温多湿な気候であるため、日本のように季節を感じにくいことから、各国で体験できない四季の移ろいを体感することを求めて日本への観光ニーズを高めていると言えるでしょう。

（シンガポール事務所所長補佐 堀江）